

鳴門市学期制検討委員会による検証

本市では、平成29年8月、学期制のあり方を検討するため、有識者、学校関係者等で組織する「鳴門市学期制検討委員会」を設置しました。

第1回検討委員会において、2学期制の成果を検証し、今後の学期制のあり方を検討するためにはアンケート調査を実施する必要があると判断し、平成29年10月に保護者や学校関係者を対象に「学期制に関するアンケート調査」を実施し、第2回検討委員会において、アンケート調査の実施結果について検証しました。

アンケート調査結果の内容については、別添の「学期制に関するアンケート調査の実施結果」をご覧ください。

＜鳴門市学期制検討委員会における総括＞

- 「3学期制が望ましい」と回答した保護者の割合は約51%であり、この割合を受け、即3学期制へ移行するという判断はしにくいですが、現時点での結果として重く受け止める必要がある。将来に向けて、より具体的な研究、検討を進めていくことが望ましいのではないかと。
- 教員の「2学期制が望ましい」という回答は、全体で約67%であり、現場では3学期制よりゆとりを持ちやすい2学期制への支持が多く、学期制のあり方を検討するにあたっては、教員の多忙化解消について並行して取り組んでいくべきである。

＜今後の予定＞

学期制のあり方の検討は、学校教職員の多忙化の問題と併せて検討する必要があります。今後は、学期制を検討するうえで課題となる通知表の回数や始業・終業式等の行事のあり方等について、有識者や学校関係者で組織する「鳴門市学力向上推進委員会」や校長会等の機会を活用し、具体的な検討を行います。

その際、あわせて、教員等の意見を聴取するとともに、PTAの代表者を含めた検討委員会を設置し議論を行うなど、本市にとって望ましい学期制のあり方について検討を進めていきます。